

聖書箇所：ルカの福音書 5章 17～26節

説教題：友よ。あなたの罪は赦されました。

1 だれの信仰によって救われるのか

ローマ書 10章 10節に、「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです」とあります。救いをいただくためには、イエス・キリストこそ私たちの主であることを自分の口で告白しなければならない。それが私たちの知っている救いの基本原則です。

今日の箇所では、中風の人が救われております。この人はどのようにして救われたのでしょうか。自分の口で罪を告白したのでしょうか。いいえ。中風というのは、別名「脳卒中」とも呼ばれ、脳の血管の障害が原因でからだか不自由になってしまう病気のことを言います。ことばもしゃべられなくなることがあります。この人はまさにそういう人でした。口がきけず、寝たきりの状態でした。自分の意志を表すことがまったくできません。そんな人がどうやって救われたのでしょうか。

20節にこうあります。「彼らの信仰を見て、イエスは「友よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。」「彼らの信仰を見て」と書いてあります。「彼ら」とはだれのことか。中風の人を連れて来た人たちです。屋根に穴を開けて、吊りおろした人たちです。中風の人の信仰ではなく、連れて来た人たちの信仰が中風の人を救ったこととなります。

これは驚きです。そして、これは大きな励ましでもあります。私たちは親や子ども、家族や友人たちの救いのことを祈ります。祈りがかなえられ、救われる人たちが起こされます。しかしそうならない場合が多くあります。

でも、祈りが足りなかったのかと、自分を責める必要はありません。信仰告白せずに亡くなったので、あの人は救われぬ。そのように短絡的に考える必要はありません。今日の箇所を見てください。本人の信仰告白がなくても、神は、私たちの祈りと願いに応じてくださり、救ってくださる。その約束がここにあります

2 律法学者たちの異議申し立て

(1) 神だけが罪を赦すことができる

さて、今日の本題はその「救い」についてです。イエスは中風の人に向かって「友よ。あなたの罪は赦されました」と宣言しました。それに対し、律法学者、パリサイ人たちは抗議します。「神をけがすことを言うこの人は、いったい何者だ。神のほかに、だれか罪を赦すことができよう。」

罪を赦すことができるのは、神しかおられない。それが彼らの主張でした。それが真実であるのかどうか。まずその事を確認しておかなければなりません。

パウロは「ちょうどひとりの人によって罪が世界に入った」と書いています。ひとりの人とはアダムのことです。アダムは、神のみことばに逆らい、食べてはならないと言われた木の実を食べました。それが罪の始まりでした。神に反逆し、自分を神とする。それが罪ということです。

では、その罪を赦すことができるのはだれなのか。牧師でしょうか。しかし、私には人

の罪を赦す権威はありません。理由ははっきりしています。私自身が罪を冒していると自覚するからです。自分で盗みをしていながら、ほかの人の盗みの罪を赦すと言っても、だれも信用しない。それと同じです。

本当に赦すことができるとしたら、それは罪のない方しかできません。それはどなたですか。神です。神だけが罪を赦す権威をもっておられる。律法学者、パリサイ人たちはその点でまったく正しいことを主張しています。

そこまでは問題ない。その後が問題でした。彼らはイエスが神であるとは絶対に認めようとはしません。そこでつまずきました。「おまえは、いったい何者だ。おまえが自分で罪を赦す権威をもっていると言い張るのなら、おまえは自分を神とし、神をけがしていることなる。」顔を真っ赤にして今にも服を引き裂いて怒りを露わにします。

3 どちらがやさしいか

(1) 人にとって

多くの人たちが集まっている場所に緊張が走りました。しかしイエスは動じることはありません。逆にこの機会を利用し、真理を明らかにしていけます。それが23節以降に書かれていることです。

さて、皆さんはここを読んですぐに理解できたでしょうか。何か複雑な印象をもたれなかったでしょうか。もっと単純に、「わたしは神です。だから私は罪を許す権威を持っているのです」と言えば簡単なのにと思わなかったでしょうか。でも、なぜかイエスはそうはされません。

イエスはこんな言い方をされています。23節です。「『あなたの罪は赦された』と言うの

と、『起きて歩け』と言うのと、どちらがやさしいか。」

さて、いったいどちらが易しいでしょうか。後のほうから考えましょう。「起きて歩け」と言うことは易しいですか？もちろん口で言うことは簡単です。言うだけでよいのなら私は何度も繰り返します。

ところが結果を求められるというのなら、一転して大変難しいことばになります。私が、中風の人に向かって「起きて歩け」と言っても、そうならないことはわかっています。ですから、私は言えません。もし言ってしまうと、「小澤さん。全然ダメですね。あなたのことばは信用できません」と言われておしまいです。

では最初のことばはどうでしょう。「あなたの罪は赦された。」先ほどと同じように結果が求められたとします。起きて歩き出すとか、何か目に見える現象が起きるわけではありません。罪が赦されたことの結果を目で確認することは、だれにもできません。口で言ってもだれも確認のしようがないのですから、言おうと思えばだれでも言えます。

そうしますと、こういう結論になります。「『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』というのと、どちらがやさしいか。」答えは、「あなたの罪は赦された」と言うほうがやさしい。それが私たち人間の側から見た結論です。

(2) イエスにとって

ではイエスの側から見れば、どのような結論になるのでしょうか。イエスは、中風の人に言いました。「あなたに命じる。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい。」すぐにイエスのみことばのとおりの中風の人は

起き上がり、床をたたんで、神をあがめながら家に帰っていきました。

ここで、皆さんに質問いたします。イエスにとってどちらがやさしかったと思いますか。三つのうちから一つを選んでください。一つ目の選択肢。「あなたの罪は赦されました」こちらがやさしい。二つ目の選択肢。「起きて歩け」こちらがやさしいのか。三つ目の選択肢。いや、イエスは神なのだから、どちらもやさしかった。この三つのうちどれが正解だと思いますか。

何人かの方はこう考えるでしょう。「イエスは神だから、どちらもやさしいことだ。だって実際に、イエスは「あなたの罪は赦されました」と言っているし、「起きて歩け」とも言っているではないか。」

4 罪を赦すときイエスの中で起きていたこと

(1) 罪のゆくえ

本当にそうでしょうか。イエスがお語りになったみことばをもう一度読みたいと思います。23 節。「『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらがやさしいか。」

イエスは何と問いかけておられますか。「この二つのうちいったいどちらがやさしいとあなたがたは思っているのですか。」イエスが問いかけておられるのは、あくまでもどちらか一方です。どちらがやさしいのか比べてください。と問いかけています。イエスはどちらもやさしいことだとはひとつも言っていない。私たちが勝手にそう思っていただけに過ぎません。

ではイエスにとっていったいどちらがやさしいことなのでしょう。聖書を読んでい

てしばしば、神の御思いと私たちの考えは正反対であることを感じる場合があります。この箇所もその一つです。私たちにとってやさしいと思えたことが、神にとっては非常に難しいこと。逆に、私たちにとって非常に難しいと思えたことが、神にとってはやさしいこと。

私たちは、神が「あなたの罪は赦されました」と言われることは、やさしいことだと思ってきました。そのことをもう一度考え直さなければなりません。

「罪は赦された」と言ったのち、その罪はどうなるのでしょうか。消えてなくなるのなら、何も問題ありません。聖書は必要ありません。イエス・キリストが来る必要もありません。神がひとこと語っておしまいです。「あなたの罪は赦されました。」それで罪は消えてしまうからです。

しかし事実はそうではない。罪がそう簡単に消えないから、私たちに聖書が必要だったのではないですか。それでは済まないの、イエス・キリストが来られたはずではなかったですか。

罪はなくならないというのなら、その罪はどこに行ったのでしょうか。イエスが全部背負われました。イエスは罪のないお方でしたが、この方が罪を背負われ、罪人となられました。なぜ、イエス・キリストは十字架でさばきを受けられたのですか。もしこの方のところに一つも罪がなかったのなら、父なる神はさばくはずはありません。この方が十字架でさばかれたのは、この方のところに罪があったから。だれの罪ですか。私たちの罪です。

(2) 罪を背負うことのつらさ

イエスは「あなたの罪は赦されました」と

言ってくださいます。裁判官のように、安全なところに立って言っているではありません。「あなたの罪は赦されました」と言ってくださった瞬間、この方は私たちの罪をご自分のほうへと引き寄せ、背負われたということです。

イエスが私たちの罪を背負われるとき、何も感じなかったのでしょうか。神なのだから、何でもおできになるスーパースターだと思っていましたか。思い違いをしてはなりません。この方にとって、私たちの罪を赦すことがどれだけ大変なことであったのか。つらいことであったのか。そのことに気がつかなくはなりません。

でも、イエスはそんなことをひとことも語ろうとなさいません。その代わりにこうお語りになります。「『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらがやさしいか。」

おわかりでしょうか。なぜ、こんなまわりくどい方法を主がとられるのか。「わたしはあなたのために、これだけ苦しんでいるんですよ」と、ご自分の苦しみを押し売りするようなことは絶対にする方ではないからです。だから「どちらが難しいか」とは言いません。

「どちらがやさしいか」と言うのです。このような表現ならば、この方が苦しみを感じていない印象を私たちは持ちます。そこまでしてご自分の苦しみを隠そうとされます。なぜそこまでされるのでしょうか。この方にとって、ご自分が苦しむことよりも、私たちを救うことのほうがもっと大切だからではないですか。そのイエスは、どのようにして私たちを救ってくださるのでしょうか。

人々のいる目の前で、中風の人起きて歩き出しました。地上で罪を赦す権威をもって

おられるのはだれなのか、そのことを私たちに示すためでした。「権威」と聞けば、上に立つ者の力ということを想像します。しかし、イエスは権威を振り回すようなことはなさいません。その逆の方向に歩まれます。私たちのために低くなられ、小さくなられ、この方が神であることさえ気がつかないような、貧しい者のお姿をとって私たちを救おうとされました。どれほどの貧しさでしょうか。

中風の方は屋上の屋根から吊りおろされ、イエスに出会い、救われていきました。上から下への方向です。イエスは貧しい姿となられ、反対の方向である下から上への方向、十字架に上げられていきます。権威ある方なのに私たちの罪を背負われ、そのようにしていただきました。

主の御名をあがめたいと願います。